

ヒナコウモリ科の仲間

Vespertilionidae sp.

ヒナコウモリ科

「コウモリ」の由来

漢字名: 蝙蝠

蚊を食べるから「蚊欲(かほり)」が転じたという説、翼の様子から「皮張り」が転じたという説、川守(かわもり)が転じたという説などがある。

十勝地方で確認されているコウモリは13種(2003年現在)で、コキクガシラコウモリ(キクガシラコウモリ科)以外はすべてヒナコウモリ科の仲間である。環境省レッドリスト(2007)ですべて指定からはずされた。

コウモリ(小型)一般の特徴

目は大変に小さく明暗を感じる程度。超音波を口や鼻から発してその反響音で障害物・餌・自分自身の位置を判断する。熱帯地域を除き、冬には体温を下げて冬眠する。十勝地方のアイヌ語では「カパカカムイ」という。

科名	種名	国レッド
キクガシラコウモリ科	コキクガシラコウモリ	—
	モモジロコウモリ	—
	ドーベントンコウモリ	—
	ホオヒゲコウモリ	—
	ヒメホオヒゲコウモリ	—
ヒナコウモリ科	カグヤコウモリ	—
	キタクビワコウモリ	—
	ヤマコウモリ	—
	ヒナコウモリ	—
	チチブコウモリ	—
	ウサギコウモリ	—
	テングコウモリ	—
	コテングコウモリ	—

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原樹林)
鳥類
ワシ(タカ)

食性

主に飛びながら小型の昆虫を捕食する。出前にねぐらに帰る。
日没前にねぐらの穴から出て、飛翔する昆虫を食べ、日の

繁殖生態

秋に交尾をし、排卵・受精は冬眠明けの春に行われるのがほとんどである。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
出現期					■	■	■	■	■	■		
交尾期								■	■	■	■	
冬眠期	■	■	■	■	■					■	■	■
受精・出産・育児					■	■	■	■				

カグヤコウモリ

Myotis frater

ヒナコウモリ科



名前の由来

青森県の竹林で発見されたため「竹→かぐや姫」の連想でつけられたという。漢字名: かぐや蝙蝠

特定種

北海道レッドデータ: 希少種 (R)

形態的特徴

頭胴長(鼻先から尻尾の付け根まで) 44~56mm、前腕長(肘の後端から腕関節までの長さ) 36~41mm、体重5.5~11g。後ろ足が小さい。ヒザから足首までが長く18mm以上ある。体毛は黒褐色である。

繁殖生態

家屋で、100頭を越える繁殖コロニーをつくることもあるという。初夏に1子を出産、約30日で親ぐらいの大きさになり飛び始める。初産年齢は2歳。

生息環境・分布

昼間のねぐらは、本来は樹洞であると考えられている。大木の枯れた樹皮の間で眠るともいわれる。夜、樹木に囲まれた小水路で確認されている。

分布: 国外分布は、トルキスタンから東シベリア、東南中

国に分布。国内分布は、北海道と岐阜・石川両県以北の本州。北海道内全域に分布。十勝地方では十勝川中流域、芽室町、糠平などで確認されている。

ヒナコウモリ科一般に対する配慮事項

樹洞のできる木のある樹林、洞窟などのねぐらとできる場所、及び大量に水生昆虫が羽化する樹木に囲まれた水域などの採餌場が必要である。

参考文献

「コウモリ観察ブック」熊谷さとし・大沢夕志・三笠暁子・大沢啓子共著 桜桃書房 2002
「日本の哺乳類」阿部永監修 東海大学出版会 1994
「日本動物大百科 1 哺乳類 I」日高敏隆 監修 平凡社 1996
「北海道 森と海の動物たち」エコ・ネットワーク編 北海道新

聞社 1997

「北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書 3 アイヌ語十勝方言の基礎語彙集 一本別町・沢井トメノのアイヌ語」澤井春美（編・著）、北海道立アイヌ民族文化研究センター 2006

魚類

底生動物

爬虫類
両生類

トンボ

チョウ
ウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ